

PMシンポジウム2009 開催のご案内

昨年来の地球規模での経済の変調、環境問題やエネルギー問題等、課題山積の時代です。このような中でわが国を担うのは20世紀の成長を支えてきた団塊世代から新たな世代への移行期にあります。こうした時代にしっかり向き合っ、時代に克つには、足腰のしっかりしたプロジェクトマネジメントが必要です。近年、プロジェクトマネジメントの体系化並びに普及が進んできましたが、知識に留まる限りは本物のプロジェクトマネジメントは実現しません。今回のシンポジウムでは、知識に実践力が備わった本格派のプロジェクトマネジメントについて考えます。

先達の知恵

実践の中には様々な先達の知恵が含まれています。日本の強みであるものづくりに関わる「製造」を独立トラックとし、様々な業態におけるプロジェクトおよびプロジェクトマネジメントの実践事例を紹介いたします。

変革の知恵

明日を切り拓く活動には変革の知恵が必要です。イノベーションとプログラム&プロジェクトマネジメントをテーマにした「PMの新機軸」「P2M」トラックでは、事業概念から発する使命の達成を目標とした価値創造事業に照準を当てています。

衆知の知恵

より多くの知恵の結集が重要です。CFP（公募に基づく講演）には力作が揃いました。さらに、「カフェ・ド・eシンポ」やセミナー/ワークショップ等の参加型企画も一段とパワーアップして提供します。

各種ポイントの認定対象となる— PMシンポジウム 2009

■CPU ■PDU ■PM教育受講証明 ■知識ポイント

■CPU

発給ポイントは以下の通りです。(1時間当たり2ポイントが基本となります)

- 1日目(全時間出席の場合) : 10.5ポイント
- 2日目(半日講座) : 5ポイント
- 2日目(1日講座) : 11ポイント

CPU取得証明書を発行いたします。

■PDU

ENAAはPMI®認定教育プロバイダー(REP)であり、本大会は、メイン・シンポジウム並びに2日目のセミナー共にPMP®向けのPDU発給対象となっております。発給ポイントは以下の通りです。

- 1日目 : 7PDU
- 2日目(半日講座) : 3PDU
- 2日目(1日講座) : 6PDU

注意 PMI®へのPDU申請は必ず一括で行ってください。(1日目・2日目を分割するとエラーになります。) また、PMP®資格認定試験受験用受講証明書も発給致します。

■知識ポイント(ITコーディネータ)

ITコーディネータ資格者には、協賛(後援)により、1日目は6時間30分、2日目は、半日講座はそれぞれ2時間30分、1日講座は5時間15分(4時間当り1ポイント相当(上限なし))の「知識ポイント」が付与されます。

1日目(9月10日) 午前

基調講演1 未来の"物作り"と"物事"創り 10:00~ ロボットプロジェクト推進のコツ



千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター(fuRo)所長 古田 貴之

ロボット技術(RT)は近年、完成度と機能・性能の進歩はめざましく、今後それらのRTが導入された製品とそれに付随するサービスの事業化は実現一歩手前まで来ている。経済産業省も国の重点開発領域としてロボット技術を上げており各種ナショナルプロジェクトも進行中である。

これからの高齢化社会を見据えた場合、RT導入率の高い各種製品を企画し事業化する動きが各業界にて現在起こりつつある。「モノの価値とは何か」「顧客価値・満足度とは」という問題の解決に主眼をおく戦略こそ、先端的RTの普及ではキモになる。特に現在製品として存在しないモノを事業化し世に送り出すためには、技術開発、サービスモデル、ビジネスモデル、さらには人材育成までを包括的に組み立てて行かねばならない。

一方で深刻な問題となりつつあるのがエンジニア志願者の激減現象である。本講演では、まず第1に、ロボット技術の最新動向とその事業化の際のプロジェクト推進スキームについて、課題と解決案をとりまぜご紹介する。ロボット界の最新動向についてもご報告させて頂く。第2に、エンジニア志願者の掘り起こしを目的とした学生・社会人対象の教育コースについても、実施趣旨と内容について紹介し、その効果についても紹介する。

RTで未来社会を築くのに必要な事柄は“物作り”でなく“物事作り”である。RTがもたらす未来社会について述べていく。

【講師略歴】 千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター(fuRo)所長。工学博士。2001年、(独)科学技術振興機構ERATO北野共生システムプロジェクトにてロボット開発グループリーダー。2003年6月より現職。ヒューマノイドロボット「morph3」、2003年に自動車技術とロボット技術を融合させた「ハルキゲニア01」を開発。2007年、ハルキゲニア01の進化型「ハルキ2」を開発。「ハルキ2」は、搭乗型ロボット操縦システム「ハル」とともに日本科学未来館にて常設展示・デモが行われている。経済産業省「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト(2007~11年)」および産官学連携の各種プロジェクトによりロボット技術の事業化・実用化に携わる。

基調講演2 中国における世界最高層ビルの建設プロジェクト 11:05~ 「上海環球金融中心」完成までの歩み



森ビル株式会社 専務取締役 森 浩生

昨年10月上海に地上492m・101階建ての超高層ビル「上海環球金融中心」をグランドオープンさせた。垂直庭園都市というコンセプトのもと、オフィス・ホテル・展望台・カンファレンス・商業施設等の各種施設を備えた延床面積381,600m²の複合開発事業である。中国経済の牽引役として発展目覚ましい上海市浦東新区のなかでも国際的金融機関の集積する陸家嘴金融貿易区のランドマークとなっている。

当社にとっては、大連「森茂大厦」(1996年竣工)、上海「HSBCタワー」(1998年竣工)に続く中国における3棟目のプロジェクトであり、当プロジェクト遂行に当ってはこれまでの中国での経験を十分に生かし、日本と中国の商習慣の違いを踏まえ、取り組んだ事業である。1994年の着想から竣工までの14年間には「アジア通貨危機」による工事の中断があり、さらには中国における許認可手続の複雑さもあって、竣工までの道りは決して容易ではなかった。

今回はプロジェクトを始めるに至った経緯、プロジェクトの目的、概要を紹介すると共に、中国において実際に直面した問題点を示しつつ、当社のプロジェクト体制、スケジュール・品質管理等をどのようにマネジメントしたのかに言及する。重ねて事業採算についても言及したい。皆様の海外建設プロジェクトの参考になればと思っています。

【講師略歴】 東京大学経済学部卒。1986年4月 株式会社日本興業銀行入行。証券営業部、産業調査部を経て、1995年 森ビル株式会社入社。2000年常務取締役就任後、2003年より 専務取締役(現任)。2005年4月 上海環球金融中心投資株式会社(日本法人)代表取締役および上海環球金融中心有限公司(中国法人)董事長 就任(現任)。現在、森ビルグループ各社の経営に携わり、森ビルの管理運営本部長、中国事業本部長を兼任。社外団体としては日本取締役協会会員、不動産協会住宅政策委員、2008年よりULIジャパン会長就任。